

～子供に夢や感動を！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成 28 年 1 月 9 日
＜第 9 号＞
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318



東京教師養成塾は、関係大学や教師養成指定校、学校経営支援センター、区市町村教育委員会との連携を図り、東京都の教員に必要な豊かな人間性と実践的な指導力を兼ね備えた人材を、学生の段階から養成しています。今年度で 12 年目を迎え、これまでに約 1,300 名以上の修了生が東京都の教員として活躍しています。

「東京教師養成塾通信」は、東京都教育委員会が設置した東京教師養成塾の活動について広く知っていただくための通信です。

●第 15 回ゼミナール「学習の安全のために②～フィールドワークを取り入れた学習～」

平成 27 年 11 月 14 日（土）に、第 15 回ゼミナール「学習の安全のために②～フィールドワークを取り入れた学習～」を実施しました。この講座は、実地踏査を通して校外学習の意義や安全指導の留意点を理解し、校外学習の計画を立てることがねらいです。小学校コースは、社会科見学等の実地踏査として、東京都水道歴史館や神田明神、湯島聖堂、ニコライ堂を巡りました。特別支援学校コースは、遠足の実地踏査として東京ドームシティアトラクションズを活動場所とし、児童・生徒を引率する際の留意点を意識しながら、どのような活動ができるかについて考えました。

それぞれの活動について、対象学年や人数を設定して実施しました。塾生は、学ばせたいことを明確にした上で学習計画を立てることの難しさを実感するとともに、児童・生徒が安全に気を付け、主体的に学ぶ活動を保障することの意義についても考えることができました。



東京都水道歴史館

水道の歴史を学ぶとともに、教員として児童を引率した際の指導のポイント（展示物の活用方法等）を学びました。

【塾生の感想より】

- ・ 実地踏査を行うことで、ねらいの立て方や危機管理体制の在り方について詳しく知ることができた。細い道や信号の無い横断歩道では、どこで話を聞かせるのかなど、教師が児童・生徒を引率する際に配慮すべきことがたくさんあることが分かった。
- ・ 児童の目線で見学することで、危険な場所や昼食をとる場所、道幅の広さなど、配慮することが多くあることが分かった。児童・生徒が安全に学ぶことができるよう、その場に応じて教師がどのように動き、どのような体勢で話をすればよいのかについても学ぶことができた。

児童・生徒が利用可能かどうか、また、利用する場合は、どのようなことに配慮しながら活動させるとよいかを係の方と相談しながら考えました。



東京ドームシティアトラクションズ

●第 16 回ゼミナール「外国語活動の指導力向上～模擬授業を通して～」

平成 27 年 12 月 19 日（土）に、第 16 回ゼミナール「外国語活動の指導力向上～模擬授業を通して～」を行いました。この講座は、外国語活動の目標や内容、指導のポイントについて講義や演習を通して理解することがねらいです。東京学芸大学教授の粕谷恭子先生を講師に招き、学習指導要領での位置付けや具体的な指導方法とともに次期学習指導要領の改訂において期待されることなどについて学びました。

演習では、「Hi, friends」を活用し、担任として一人で指導をする場合と、ALT と共に指導をする場合について、模擬授業や VTR の活用を通して具体的な指導方法を考えました。

【塾生の感想より】

- ・ 私自身、外国語に対して苦手意識があったので、子供に英語を好きになってもらうような手だてをどうすれば良いか分からなかった。しかし、本日の授業で、まずは“相手に伝えたい”という思いを子供から引き出し、伝わる喜びを感じさせることが大切であるということが分かった。そのためにも、子供にとって身近なものや英語を結び付け、繰り返し音で聞かせて、思いと音、意味がつながるような指導が大切であるということが分かった。このように指導をすることで、意味が分かったとき、子供は自然と“英語を話すことが楽しい”と感じることができるのだと思う。



講義の様子



模擬授業の様子

【授業づくりのポイント⑧】

◆授業力向上に向けた取組◆

東京教師養成塾教授 信方 壽幸

平成26年度及び平成27年度に東京都教育委員会が実施した調査では、通常の学級に在籍している幼児・児童・生徒のうち、発達障害のあると想定される者の在籍率は、幼稚園・保育所で5.1%、小学校で6.1%、中学校で5.0%、高等学校で2.2%との結果を得ています。そのため、これからの教員には、発達障害を含む全ての子どもたちにとって分かりやすい「ユニバーサルデザインの考え方に基づく授業づくり」が求められます。

授業のユニバーサルデザインとは、「どのクラスにもいる発達障害の可能性のある子供や、学力が劣りがちな子供に対する指導の工夫や配慮が、他の子供にとっても『楽しく分かった・できる授業』に通じる」というものです。そのためには、①参加（活動する）→②理解（分かる）→③習得（身に付ける）→④活用（使う）のステップでの丁寧な授業づくりが必要です。授業力はこの繰り返しの中で身に付きます。

ステップ①「参加（活動する）」では、クラス内の理解促進、ルールの明確化、時間の構造化、場の構造化、刺激量の調整が視点として挙げられます。例えば、時間の構造化には、終わりの時間が分かる時計や、授業の流れが分かるミニ黒板等の視覚的な学習環境、刺激量の調整では、カーテンで視覚の刺激を隠す、机の脚にテニスボールを付けて、音が出ないようにするといった学習環境の整備が考えられます。

ステップ②「理解（分かる）」では、授業の山場を決め（焦点化）、授業の進め方、説明の方法、何を体験させるか（何を、どのタイミングで、どうつなげるか）などを決め（授業の構造化）、高い壁だと感じる子には、小さな踏み台をつくって乗り越えることができるようにし（スモールステップ化）、絵や写真等の視覚的な教材を活用したり（視覚化）、劇遊び等の動作化や作業活動を取り入れたり（身体性の活用）、友達同士で、ヒントや考えを出し合ったり、モデリングなどをしたりする活動（共有化）を工夫します。

ステップ③「習得（身に付ける）」では、既習事項や復習内容を随時、授業に取り組む（スパイラル化）ことで、どの子供にも再理解や習得の深まりの機会をつくり（適用化（応用／汎用））、学んだことを応用したり、他のことに適用したりできるようにしたり（適用化（応用／汎用）して、授業で学んだことを実生活で使え、発展的な課題も解決できるようにします（機能化）。

東京都教育委員会は、昨年11月、「東京都発達障害教育推進計画（案）の骨子」を公表し、発達障害の児童・生徒用の「東京ベーシック・ドリル」や「指導事例集」、「ユニバーサルデザインの考え方に基づく指導と学級づくりのためのガイドライン」を作成することを明記しました。発達障害の子供は、どの学級にも在籍しています。これからは、こうした指導資料を参考に授業力の向上に努めていきましょう。

【連載コラムシリーズ】

◆組織の一員として求められること◆

東京教師養成塾教授 坊野 美代子

新しい年が明けました。4月から公立学校の教師を目指す皆さんは、教師として高い使命感をもって児童・生徒の指導に当たるのは無論のことですが、同時に「学校」という組織の一員として役割を果たすことが求められます。

教師としての職務は、児童・生徒の指導や校務分掌に関すること、地域・保護者への対応に大別されます。それぞれの職務について、「組織の一員として求められること」を考えてみましょう。

児童・生徒の指導は、教師の職務の中で最も多く時間をかけるものと思いますが、教師一人の考えで行う訳ではないことは言うまでもありません。学習指導では、年間指導計画を立て月間指導計画や週ごとの指導計画（週案）で進行管理を行います。他の学級、他の教科との関連やティーム・ティーチングなどにも配慮しながら指導を進めていきます。生活指導においては、特に、組織的に取り組むことが大切です。そのためには、教員間の連携や校内の連絡・報告・相談が欠かせません。一人で抱え込まず、情報の共有を心掛けることが求められます。学校の教育目標や経営計画を柱として、教師が一丸となって児童・生徒の指導に当たっていく。このことが、組織の一員として大切な心構えであると言えます。

学校の職務には、校務分掌の分担もあります。学校組織を動かしていく役割を分担して担うことです。遠足や運動会などの学校行事の実施計画の作成担当、出席簿や通知表の用紙を発注するなどの教務と言われる役割、給食の実施に関することなど、様々あります。職務を担当したら、昨年の実施状況を把握し、反省点を生かして今年度の計画を立てるようにします。定められた期日に沿って職務を行うことも、組織の一員として大切です。実施後に反省をしっかりと行い、次年度に向けた改善策を立てるPDCAサイクルを身に付けましょう。

地域・保護者への対応で心がけておくべきことは、「〇〇学校」という看板を背負っているということです。教師の発言は、地域・保護者の方には、「〇〇学校の先生の言ったこと」と受け止められます。職務上のことだけでなく、日頃の自身の振る舞いにも自覚と責任が求められます。

教師は、このように組織の一員として多くのことが求められます。しかし、最も大切なことは、教師は人を育てる職業であると常に心に刻むことではないかと考えます。